

文教施策懇談会・各課懇談会について

○全体会……馬淵副会長

中易会長から、「本道の児童一人一人が分かる喜び、できる感動を感じ、日々の学習活動に夢中になる教育活動に取り組んでいきたい。」という話があり、様々な課題に向けて道教委の一層の支援をお願いした。立川教育長より、学力向上・体力向上・いじめの問題・特別支援教育・食育・教職員の広域人事・服務規律の7点についてお話があった。特に、学力向上・体力向上については、家庭学習や運動の目安となる資料の作成・配付など、北海道学力向上運動を展開していきたい。服務規律については、すでに、今年度33件の懲戒処分を行っており、極めて憂慮すべき状況であり、アンケート調査による75件の体罰問題も含め、服務規律の保持に厳正を期するように強い要請があった。このあと、鈴木事務局長からは、北海道教育の今日的課題について説明があり、道小・道中・教頭会の各代表が学力向上・教育条件の整備・生徒指導上の問題点への解決の方策・教頭を取り巻く現状と課題解決の方策などを説明し、道教委の見解を求めた。道教委からは、杉本総務政策局長、西崎学校教育局長、林教職員局長が追加質問を含めて課題意識や今後の方向性について回答があった。

○ 第1分科会…大江副会長

「教育課程の編成・実施・評価・改善」については、学力向上についての話し合いがあった。また、教職員の定数改善についての話し合いがなされた。「教職員の資質向上と広域人事、研修体制」については、今後の広域人事に関わる情報交流がなされた。

○ 第2分科会…松田理事

「子どもと向き合う時間を確保するための具体策」については、教職員の定数改善、教職員のPCの整備、校務支援システム導入の予算措置、勤務時間縮減の方策などが話し合われた。各学校の実態調査に基づき、休憩時間の確保に向けた対応策について交流を行った。「学校における危機管理の在り方」については、アレルギー疾患のある児童生徒への対応についての方向性が話し合われた。

○ 第3分科会…栗栖副会長

「特別な配慮を要する児童生徒への対応」については、特別支援コーディネーターの役割と配置、特別支援学級担当者の免許取得への働きかけ、特別支援教育支援員の人材確保について話し合われた。「学びの支援のための条件整備」については、スーパーバイザーの複数配置、特別支援教育支援員の全校配置に向けた市町村への働きかけ、通常学級に在籍する特別な支援を必要とする児童の保護者への啓発、教員の専門性を図る研修の充実、通級教室の担当教員の増員と年齢構成、インクルーシブ教育システム構築の現状と今後の見通しなどが話し合われた。